

まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第12回（平成19年度第1回）かごしままちづくり会議
開催日時	平成19年5月25日（金）14:00～16:00
開催場所	東別館11階 1101・1102会議室
出席者 （委員） （市職員）	委員11名、市職員7名 宮廻会長、西園委員、時村委員、今別府委員、四元委員、 井上委員、武委員、永山委員、西委員、前田委員、山本委員 新地企画部長、黒木政策推進課長、原政策推進課主幹、石田子育て支援推進課長 町田こども福祉課長、その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部政策推進課
会次第	1 開会 2 報告 （1）平成18年度の開催経過について （2）第11回（平成18年度第5回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について （3）第11回（平成18年度第5回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） （4）第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等について （5）平成19年度予算について （6）新市まちづくり計画の進捗状況について 3 協議 （1）組織のあり方及び平成19年度の会議の進め方について （2）テーマ：次世代育成 4 その他 5 閉会
会議の概要	1 開会 2 報告 （1）平成18年度の開催経過について ○事務局から、平成18年度の開催経過について説明。 （2）第11回（平成18年度第5回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について ○事務局から、第11回（平成18年度第5回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について説明。 （3）第11回（平成18年度第5回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） ○事務局から、第11回（平成18年度第5回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況のうち全市的な事項6項目について報告。 （4）第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等について ○事務局から、第12回（平成19年度第1回）地域まちづくり会議等の概要

について報告。

(5) 平成19年度予算について

- 事務局から、平成19年度予算について報告。

(6) 新市まちづくり計画の進捗状況について

- 事務局から、新市まちづくり計画の進捗状況について報告。

3 協議

(1) 組織のあり方及び平成19年度の会議の進め方について

- 事務局からテーマに関して、組織のあり方及び平成19年度の会議の進め方について説明あり。

- 委員から、喜入地域については、地域の声を行政に伝える場は必要である。今後も何らかの場はあったほうがいいのではないかと。会議のあり方については、かごしま会議や他の地域会議の動向を視野に入れなくてはならないのではないかと。その意見等もあった。そのため、かごしま会議や他の各地域会議の動向を踏まえて、次回の会議で協議する予定であるとの発言あり。

- 委員から、桜島地域については、出された意見・提言等の中には施策に反映されたものもあり、一定の成果があったと評価している。平成19年度で委員の任期も終ることとなり、また設置後丸3年が経過することから、この会議も平成19年度で一応の区切りをつけていいのではないかと。しかしながら、ワークショップなりの何らかの形で地域の意見を市政に反映する仕組みや、東西桜島が一体として桜島全体となって地域づくりを目指す組織づくりが必要であるとの発言あり。

- 委員から、松元地域については、これまでの会議で新市まちづくり計画の施策の体系に沿ったテーマを設定し協議を重ねてきたが、この新市まちづくり計画こそが将来の松元地域のまちづくりを進めていくうえでの具体的な方向性を示しているものであり、今後、きちんと施策に反映していくことが重要なことであると思う。合併協議において「19年度中に組織のあり方を検討する」となっており、また、委員の委嘱期間も19年度までとなっていることなどから、今年度中に会議の一定のとりまとめを行ってはどうかとの発言あり。

- 委員から、郡山地域については、19年度中に終わるということであればいろいろと意見交換をし、今年いっぱい何らかの成果を上げないといけない。15人委員がいるので、3つのグループに分かれ自主研究をする予定であるとの発言あり。

- 委員から、吉田地域については、委員が今年で満了、年度末での取りまとめも早めて意見提言が新年度の予算に反映されるように進めたほうがいいのではという意見があり、他の地域会議でもあったようなことがあった。みんなも納得ということだった。本日の会議の決定に従ってまた改めて協議をしたいとの発言あり。

- 会長から、この会議は合併の中で合併後のまちづくりをスムーズにしていくということで行ってきた。一時的な性格をもともと持っていたので、3年くらいが適当ではないかと。他にもいろいろと合併の協議項目の目標があったが、スムーズな一体化ができています。ただ、一定の成果はあるけど残された課題もあ

る。そういう課題を今後どうしていくか、また、地域の声を行政に反映できるシステムが必要なのではという声もあるようだ。特に、桜島の場合は合併の時に旧桜島町側だけだったが、この先々になると桜島全体として考えるのが重要。鹿児島市全体としてのいろいろな特性を考えてどうするか、新しい地域割りをして、その声を行政に反映させていくという仕組みが必要だ。

- 会長から、ところで、地域会議での協議、検討結果はよく理解できるところであるが、かごしままちづくり会議としてどうかとの発言あり。
- 委員から、地域の活性化ということに至っては、方向性として、多様化している時代の中で、バラバラの方向を進んでいるように思う。ワークショップは住民が話し合いをしながら方向性をつくっていくもの。きちんと反映されていけるのか。整合性を持った一つの鹿児島市としての方向性や道筋を持っているといいのではとの発言あり。
- 事務局から、地域まちづくりワークショップは市民局の市民参画推進課でやり、そこで出された意見は各セクションにきちんと振り分ける作業をし、また、トータルコーディネート的なことは市民参画推進課もやるが、企画部の政策企画課や政策推進課も十分そこと連動していく考えである。地域だけに留まらないものやなかなか地域だけで解決できないものは、企画部でコーディネートして、別の方策として市全体として考えたいと思っているとの発言あり。
- 会長から、地域まちづくり会議で出た方向性はかごしままちづくり会議もだいたい同じ方向とご了承いただけていると思う。数々の意見・提言が施策に反映されるなど、一定の役割を果たすことができたところであり、テーマごとの協議もひととおり終える見込みである、3年目の19年度に、あと3回やって成果を取りまとめ、市長に提言し、終了することでいいのではないか。そして、今後の市のまちづくりについては、当面はワークショップが行われるのでそれに期待したい。かごしままちづくり会議としては今年度で終了することを、了承いただきたいと思うが、よろしいかとの発言あり。
- 各委員から、異議なしとの発言あり。

(2) 次世代育成について

- 事務局からテーマに関して、「次世代育成関係資料」について説明あり。
- 委員から、ひとり親家庭の自立支援として、ひとり親家庭で悩んでいる方のネットワークを鹿児島市が中心になって組織してもらいたい。連れ子についても同様である。また、捨て子の問題。赤ちゃんポストも最近話題になっている。保育所の整備も行政が支援しているわけだから、鹿児島市でも赤ちゃんポストについての検討をする必要があるのではないかとの発言あり。
- 事務局から、ネットワークづくりについては母子寡婦福祉会があって、仲間をつくり、お互いに協力し活発に活動し合っている。赤ちゃんポストについてはいろいろ議論がある中で、まだ、明確な方針にまでは至っていない。

連れ子については今の時点では取組みはないが、こういった対応が必要かは、次回のすこやかこども元気プラン見直しの際に検討していきたい。また、捨て子についてだが、母が亡くなったり、病気になったりなど、どうしても養育できない場合には、乳児院で措置をして育てるなどの対応をしているところ

であるとの発言あり。

- 会長から、先の委員の意見は、子育てに関してはいろいろな問題があって、やはりそれぞれ原因が異なるからきめ細かな対応をする必要があるのではということだと思う。行政もいろいろとそういうことについて認識していると思うが、またご検討いただきたいとの発言あり。
- 委員から、10年ほど前と比べたら子育てに関するメニューは充実してきているが、これだけのメニューがありながら一目で分かりにくいというのがもったいない。子育て世代が使う施設として、保健関係では保健センター、文学関係であればメルヘン館と、鹿児島市はどちらかという項目ごとに分けて施設が分類されている。そういう意味では親子つどいの広場には期待している。ただ、親子つどいの広場は相談・交流の場と聞いているので、例えば、北九州市のこども館のように、遊ぶコーナーや室内遊具施設も含め、相談コーナーなどあらゆるものが一体になっているか気になっている。また、危惧されるのは、交流のためは積極的な方であり、相談のためはそれほどせっぱつまった方でないと思うこと。本当に助けたい人は声を上げてくれないと思うので、相談コーナーにも行かないで一人でふらっと行けるような、簡単に行けるような施設があったほうがいい。あらゆる方を対象とした施設であってほしい。
- 事務局から、情報の提供については、かごしま市子育てガイドに妊娠、出産といった段階を追って必要なデータを入れ込んでいるところであるが、今後は、インターネットでも情報発信していくことも検討していきたいと思っている。

また、親子つどいの広場は5Fワンフロアの約400㎡の広さで赤ちゃんルームがあり、研修室は広い畳の部屋になっている。買い物に来た方がちょっと立ち寄って授乳もしたりおむつ替えもできるような、気軽に行けるような雰囲気施設の施設にしたいと思っている。屋上も芝生広場をつくる予定であり、ゆっくりと過ごしていただきたい。わかりやすいように1Fにエントランスホールも設ける予定である。できるだけたくさんの方が気軽に来ていただいて相談できるような施設にしていきたいとの発言あり。
- 委員から、親子つどいの広場のような気楽な場所があればとてもうれしいところである。ただ、ゲーム性があればもっといいのではないか。今時の人は、広場があっても外での遊び方を知らないものであるとの発言あり。
- 委員から、ふれあい子育てサロンは社会福祉協議会の支援により実施されているが、サロンの説明部分の民生委員・児童委員等の等は何を意味するのか。今では、地域ボランティア、婦人会、町内会のいろんな人が参加している。民生委員・児童委員が目立つ記載となっているから気になったが、ボランティアの方が多いくらいだ。また、今携わっているサロンは畳の間でとても和やかである。親子つどいの広場は畳の間と聞きとてもいいことだと思うとの発言あり。
- 事務局から、民生委員・児童委員が中心になっているほか、地域の先輩方も参加されるということで記していると考えているとの発言あり。
- 会長から、実態に合わせ、ボランティアも載せてあげたほうがいいのでは。やり甲斐があるよう配慮していただければとの発言あり。

○ 委員から、ある雑誌で鹿児島県の保育料の滞納率は全国6位とのことで驚いた。払わなくてもいいということになってはいけない。子どもの育成も大事だが、母親の育成も大事では。また、保育料滞納が最近多いが、払わなくてもいいということになってはいけない。子どもの育成も大事だが、母親の育成も大事だと思う。また、保育所入所の選定基準について、母子家庭などの方を優先させているのもわかるが、休職中で仕事に復帰する際には、入所ににくい面があるのではないか。また、最近は正社員が少なくなっているが、多くなっているパートの方々を対象とした制度が少ないと思う。対策がかみ合っていない部分があるのでは。様々な対策をする際に世の中に格差があることにも目を向けてほしいとの発言あり。

○ 委員から、待機児童のゼロを目指しているとあるが現状はどうかとの発言あり。

○ 事務局から、平成17年度から順次保育計画に取り組んでおり、新しく11ヶ所開設予定であり、そのうち今年4月までに10ヶ所全て開設している。こうした対策の効果がでており、昨年4月には約400人いたのが、今年では100人以下となっているとの発言あり。

○ 委員から、夜間急病センターについてだが、夜間に来なくてもいい子どももたくさん来ており困っているというニュースが報道されていた。全国的には実際行かなくても夜間に電話で症状を言えば、アドバイスをする所がかなりある。鹿児島市にもあったほうがいいのではないかと発言あり。

○ 委員から、非行の低年齢化が叫ばれてきている。余裕を持った学童保育のあり方を検討していただければ。児童クラブは3年生までが対象だが、兄弟がいればお預かりできるとか。高学年になったから安心していいのではないと感じるので、教育の面になると思うが検討してほしいとの発言あり。

○ 会長から、子育て、次世代育成は問題も多いが、行政の方も本日のご意見を生かせるところはぜひ生かしてほしいとの発言あり。

4 その他

○ 事務局から、次回会議は7月下旬頃の開催を予定しているとの発言あり。

5 閉会

=以上=